



安倍和子さん(左)と、浅野千鶴子さん

この発表会で配られた楽譜や様子を伝える写真、上條氏の直筆の歌詞などが、上條氏が亡くなられて半世紀が過ぎた今も、妻の和子さんや上條氏の親族らの手元で大切に保管されている。

このたび、それらの資料に加え、妻の和子さん、実妹の清水登茂恵さんらへの取材も交えて、上條馨氏が甲府一高の校歌に作詞者として込めた思いを少しでも紹介できたらと思う。



上條馨氏(左)と、小松清氏

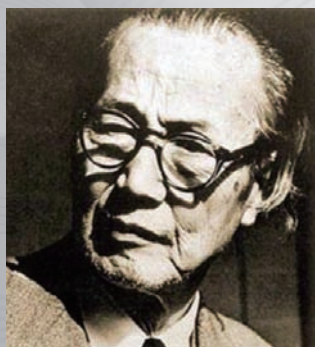
新しい我らの校歌を



三井甲之氏

「我等は生まれたり……」で始まる、甲府中学の校歌は、昭和三年に甲府中学同窓生の歌人・三井甲之氏の作詞、東京高等音楽学院（現国立音楽大学）・榊原直氏の作曲でつくられ、二十年もの間、力強く歌い継がれてきた。

そして甲府一高の校歌は、二十三年四月、学制改革により、それまでの甲府中学から「甲府第一高等学校」と名称が変更されたことに伴い、在校生らから「時代に即した新しい我らの校歌を」との機運が盛り上がり、新校歌制定への動きとなった。近藤兵庫校長（当時）が中心となり、在校生、卒業生、教職員を対象に歌詞を募集。俳人・飯田蛇笏氏を審査委員長に、寄せられた二十二編の中から審査した結果、上條氏の歌詞が選ばれた。



飯田蛇笏氏